

分科会の記録 <第1B分科会 教育課程に関する課題>

【提言者2】沖縄県 北谷町立北谷小学校 井口 郁男

【提言主題】「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組の充実について

—「北谷町スマイルプログラム」を活用した支持的風土のある学年・学級づくりを通して—

【協議の柱】

町の施策等を活かし、授業改善につなげる副校長・教頭としての役割について

【グループ協議 報告】

どの学校も一致して感じたことは、良好な人間関係づくりができたクラスでこそ、学びが深まり、確かな学力へとつながるということだった。Q-Uとソーシャルスキルトレーニングを合わせた町ぐるみの取組は、大変効果的だということだった。このような取組をしている地域は多くあったが、北谷町の取組は、教育課程に位置づけられ、系統的に指導できている点がとても参考になった。

今後の課題としては、良好な人間関係づくりができた学級でどのような学習指導を展開すると「主体的・対話的で深い学び」につながるかという視点をもってそれぞれ実践研究を重ねることではないか。また、「つなげる」視点をもって、ミドルリーダーをしっかりと育てること、若い先生たちにベテランの学級づくりの技をいかに伝えつなげるかが重要になってくるだろう。

【指導助言：全公教顧問会】（山形県山形市立山寺小中学校長 高木 光紀 氏）

- ① 児童理解の大切さ：学級づくりが授業改善につながるという視点から、人間関係プログラム「スマイルプログラム」を活用して取組んだ実践発表。安心して学校生活ができるという環境をつくることは、間違いなく教師の力である。北谷町での実践は、支持的風土のある学年・学級づくりに寄与しており、児童同士や児童と教師の良好な人間関係構築がなされた成果は大きい。
- ② 学級経営と授業改善の工夫：学習の土台となる環境が、居心地が良いというのはとても重要。加えて確認すべきことは、「主体的・対話的で深い学び」の実現には、教師の教科指導力が大きく左右する。教頭には、授業改善に挑戦しようとする意欲を高めてもらい、実践を価値付けたり評価したりしてほしい。また、授業改善のための研修の場を提供したり、情報を提供したりしてモチベーションを高めてほしい。
- ③ 教員・教頭の役割：提案では「スマイル」の有効性について教員間で実感に差があると指摘されていた。ベテラン教員と若手教員では意識の持ち方が違っている。取り組みの意識に温度差がある状態では、同じ方向に向かう歩みが滞る。「協働性」の視点からも、舵取りをするのが教頭の役割になってくる。学校ごとの意識と取り組みの差異を生まないようにするためにも組織として動く教頭の役割は大きい。課題として「継続性」と教頭としての「関与性」についてあげられていた点は、今後を期待したい。

【指導助言：佐賀県】（佐賀県学校教育課指導主幹 藤田 浩巳 氏）

「スマイルプログラム」の実施状況や諸調査等の結果から「スマイルプログラム」が良好な人間関係づくりや学年・学級の支持的風土や醸成につながるだけでなく、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善に資するものになっているか検証する取組の発表だった。

子ども同士や教師との良好な人間関係をつくることが目的ではなく、良好な人間関係を基盤として、児童生徒が主体的に参加する授業づくりを推進し、「子ども同士が学びあい支えあう」協働的な学びのスタイルを確立することをねらいとしており、有効性の高い取組であることが検証された。

教頭の役割として、担当者との連携、授業づくりへの助言、支持的風土の醸成が考えられる。何でも全てを教頭一人とするのではなく、それぞれの職員に役割を与え、担当者から全職員へという体制をつくっていくことが重要である。